

地域活性化への取り組み

◎各地区で農協まつりを開催

JAでは毎年、組合員と地域住民へ日頃の感謝を込めて、各基幹支店の特徴を生かした農協まつりを開催しています。農協まつりで地域の仲間やご家族と楽しめる多彩な催しを実施し、地域とJAとの交流をしています。

県内で活躍しているタレントやステージイベント、JA女性部や地域で活動する音楽グループ、地元の子どもたちが演奏やダンスを披露し、会場は笑顔であふれます。

抽選会では様々な賞品をご用意しており、電化製品や旅行券、食品、洗剤などが多くの来場者の手に渡ります。

今年も7月から順次開催しますので、皆さまのご来場お待ちしております。



交流を楽しむ来場者



会場を盛り上げるステージ



青年部による模擬店

農業を拓く協同組合

JAと農業

監修=JCA
(日本協同組合連携機構)

世界で活躍する 協同組合

毎月7月の第1土曜日は国際協同組合デーです。協同組合の起源は、産業革命後の労働者の厳しい生活を打開するため、1844年、英国のロッチデールという町で、労働者が自ら出資して協同組合を設立し、小さな店を始めたことにあります。協同組合は各地に広がり、1895年に国際組織、国際協同組合同盟 (ICA) ができました。世界110ヶ国から311組織が加盟し (2019年4月現在)、世界の10億人を超える組合員を代表しています。

国連は2012年を国際協同組合年とし、16年には国連教育科学文化機構(ユネスコ)が「協同組合の思想と実践」を無形文化遺産に登録しました。協同組合が「様々な社会問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価したためです。

JAも「農業協同組合」として、協同組合間の連携を取りながら、より良い社会づくりに向けた取り組みを進めています。

語句解説

【協同組合間連携】(きょうどうくみあいかんれんけい)
地域の課題解決のため、多様な協同組合が力を合わせて対応します。日本でも、地域、都道府県、全国、それぞれの段階で様々な連携が行われてきました。全国段階では、JA、生協、漁協、森林組合、ワーカーズコープ、労働金庫などの全国組織が「日本協同組合連絡協議会(JJC)」に集い、連携を進めてきました。JJCの取り組みを引き継ぎ、協同組合がさらに連携を強め、地域で果たす役割・可能性を広げていくため、18年に「日本協同組合連携機構(JCA)」が発足しました。

世界の協同組合



協同組合間連携の事例

